



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年3月1日

3月 第229号

奈良・人と自然の会



<シイタケ棺木作り。里山の幸を大切に有効利用>



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	私の読書ノート	7
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	8
里山の今・花だより	3・4	ならやまプロジェクト	9
新春ならやま研修会・レポ	5	行事案内	10
月例研修会・レポ	6	幹事会報告・編集後記	11

壮春 力歩

夢実現と感謝の念

会長 鈴木 末一

昨年末、封書が届いた。公益財団法人からの助成金決定についての知らせであった。そして、本年1月下旬には、ハードルが高いと考えていた環境活動プログラムの国内プロジェクト部門について、助成決定の内報メールが届いた。一日千秋の思いで待ち焦がれていた朗報であった。

ところで、会長職という要職をお引き受けしたのは5年前の5月。まず考えたのは、ボランティア団体の運営のありようだった。まず、三本の柱を思いついた。人材と資材と志金(資金)である。今もそう思っている。人材については、豊かな経験を持たれた多くの会員の皆さんがおられると安心してた。

資材と資金については、細かく現状を把握分析していく必要があるのではと考えた。とりわけ志金である。当初は、自分たちの活動によって目的や夢を実現するには、企業から助成金として資金を調達すればよいと考えていたが、年月日がたつにつれ、そう単純ではないことに気づいた。企業は助成金を出す場合、自然環境活動への理念の実現、つまり地域社会への貢献やその波及効果に期待を込める。助成金はその期待が込められた“志しの金”である。いつのころからか、そう考えるようになった。

就任1年目、各種の助成金情報を検索し、関係の役員の皆さんにも協力してもらいつつ申請をした。これだけの会員数で、このような活動に取り組み、景観整備を進めているのだと、思いの丈をぶっつけて申請書を作成したつもりであった。しかしながら、そんなに世の中は甘くはなかった。

研究のため、助成金セミナーにも積極的に参加し、自分たちの申請書には、何が足りないのか、冷静に見つめ直すことに努めた。必然的に、日常の活動についても、改革断行しなければな

らないことも徐々に見えるようになってきた。

セミナーで教えられたのは、プロジェクトプランニングを明確化することの大切さだった。

①何をしたいのか、何をするのか。目標や夢について集団的な話し合いの必要性。②何のためにどれくらいの資金が必要なのか。③申請書の構成や要素の充実。④志金提供者への感謝、情報提供、成果の分かち合い。⑤志金の使途の追跡とレポートを怠らない――。

そのプランニングに必要なものは、次のような事柄ではと考えている。

- ①年間、短期、中期、長期の目標を立てる。
- ②事業計画の目標を明確にする。
- ③資金(志金)提供者との信頼関係の構築、情報の公開⇒信頼の向上――であろう。

以上の視点から、企画の基本である必須条件として「6W3H」をあげることができると思う。

- (1)Why(なぜ)＝なぜその活動が必要なのか。
- (2)Whom(だれに)＝誰に対して(対象者)。
- (3)Who(だれが)＝誰が行うのか(主体的に動く組織体制は)。
- (4)When(いつ)＝どのようなスケジュールで。
- (5)Where(どこで)＝場所(活動フィールド)はどこか。
- (6)What(なにを)＝何を(どのような活動内容を)するのか。
- (7)How to(どのように)＝どのような方法で。
- (8)How much(いくら)＝どれくらいの費用で。
- (9)How many(どれくらい)＝どのくらい多く。

企画書は、以上のような内容が盛り込まれていないと相手に理解してもらえない。

「この団体は何がやりたいのか。何ができるのか。そして、助成金提供者の志に添えてくれるのかどうか」といった疑問への解答である。

さらに、忘れてはならないことがある。何よりも助成財団などへの感謝の念だ。それは志への共感と共鳴でもある。

Monthly Repo. **ならやま**

徳地 恵男

1月21日(木) 活動 曇り 75名

暦は大寒。寒い朝だったが活動すると汗ばんでくる。今日から植樹事業が始まる。苗木が約50本購入され、ビオトープ周辺にハコネウツギが4本植えられる。里山Gはシイタケの楳木づくりとマキ割り、エコGは野菜の収穫とスナックエンドウのネットをはる。景観Gは実りの森の竹林整備、ビオ班はタナゴ池の改修を完了する。花班は果樹Gと共に梅の木に寒肥を施し、アヤメ園の草取りをして腐葉土を入れる。パトGは観察路の丸太階段を更新、メンテ班は展望広場に枕木30本並べて展望台を作る。土砂を入れて整地も進む。果樹Gは梅、柑橘類に寒肥を施す。

1月28日(木) 活動 曇り後晴れ 73名

今週も植樹作業が進む。テント周りにヤブツバキ、トイレにはキンモクセイ、サイクリングロード沿いにカツラを2本、第1駐車場横にエゴノキを2本植えられる。木々が成長しどんな里地里山の姿がつけられていくのだろう。里山Gは楳木の作成とマキ割り、エコGは野菜の収穫、春野菜に向けての準備作業を行う。景観Gは実りの森の竹林整備を完了する。ビオ班は池周りの泥上げ、花班は花畑の整備と柵囲いを新たに作る。パトGは主に植樹作業、果樹Gはサクラランボの苗木3本を植え、ウメの剪定とコンクリート廃材の片付けを行う。

2月4日(木) 活動 晴れ 80名

協働活動の日である。里山林・学びの森で植樹に向けての穴掘りをする。引き続き里山Gは楳木仮置き場の整備、丸太の玉切りをする。エコGは水田周りの水路整備、景観Gはならや

ま大通り傾斜地の竹林整備をする。ビオ班はタナゴ池の掃除、花班はアジサイ園の草取り、寒肥、腐葉土を入れる。パトGメンテ班は展望台枕木の据え付けがほぼ終わり、レンギョウ、キンモクセイの苗木を植える。果樹Gはウメ、グミの剪定を行う。

2月11日(木) 活動 晴れ 77名

朝の会ではならやま研修会並びに月例研修会の報告がある。里山Gは伐採木の玉切り、シイタケ用楳木130本を木陰に集め、ユート班は伐採した枝の整理と掃除をする。エコGはナバナ等の収穫、施肥などを行う。景観Gは竹林整備、ビオ班はハス池周辺の修理、花班は日陰植物園に肥料を施す。パトGメンテ班は展望広場で杭打ち作業、竹柵を設置、果樹Gは果樹園の除草、整理を行う。昨日リモート会議で話し合った水路整備について現地で検討する。ビオトープの池には餌を探してダイサギが来ている。



2月18日(木) 活動 曇り一時雪 71名

今年一番の寒さ。昼からは綿雪が降る天気となる。里山から木を切るチェーンソーの音が響く。懸案だった仮設トイレが改修される。各Gの活動は順調に進み、展望広場はほぼ完了する。昼の時間に会長手作りの「マイおひなさま」の講習がある。竹と板を材料にして各部品を準備していただいた。後は組み立てと顔を描くことになる。「マイサンタ」に続いてのご好意に感謝。

エコファームグループ

里山の今

景観グループ



◆「田畑の愛称」余聞(こぼれ話)

吉川 利文

【丸太】エコファームグループの手づくりビニールハウスの横に約1年前くらいから短い丸太が数個ころがっていた。片側が斜めに輪切りされているので、起こすとおひなさま型。これを、グループの兄貴株でシャイなT.Kさんがしきりに立てたり横倒しにしたりしていた。愛称を、きゃしゃなプラカード型の銘板にして畑のあちこちに据え始めたころ、ふと気になって、T.Kさんに丸太の意味を尋ねた。「田畑の愛称をここに貼ってあちこちに置こう。里山グループの人に頼んで造ってもらてん」。これを聞いてぐっときた。シャイだが熱い支援…。

【面積】田畑のあちこちに据え付けた銘板には、そこの面積も記入してある。日ごろ黙々と作業するS.Kさんが実地に測量して算出してくれたものだ。一昨年暮れ、仲間も手伝って田畑をすべてメジャーで測量した。当時「見学者から田畑の面積を尋ねられてもいいように」という理由だった。銘板への流用の了解を取ると、いつものようにはにかみながら「いいよ」。S.Kさんは2級建築士の資格をお持ちだ。だから、かなり正確な面積である。あの“はにかみ王子”が2級建築士とは。ならやまの人材豊富なこと！

【霧の春秋】東の方にやや離れて通称「カボチャ畑」がある。水気が多い。まるで湿地帯だ。昨夏のカボチャは、水はけの悪さに長梅雨が加わって大失敗した。そこで愛称は、水分のコントロールを願ったものにした。畑は東西に分かれるが、東側は「かすみ」、西側は「霧立ち」とした。実は平安時代、野山を覆う水蒸気を、春のものは「かすみ」、秋のものは「霧」と区別して呼んだという。せっかくの平城京旧跡の一角、水気を敵視せず、古代気分を気取ってみた。

◆ならやまの小川

田中 善英

ならやまに‘ビオトープ’と呼んでいる場所があります。‘ビオトープ’は‘生命:bioと場所:topos’の合成語で生物の生息空間を指し、日本語では‘生物生息空間’と言います。そして‘ならやまのビオトープ’は水生生物の生息空間の保全、保護を目的としており、里山、里地の栄養を含んだ水を運ぶ小川が必要です。でも‘ならやま’には自然の小川はありません。

今、‘ビオトープ’の水はサイクリング道路沿いにある地下水を汲み上げる施設から流れてくる水が中心です。しかし、この水だと、カワナは育つのに田貝は育たず、また、水草は育ちませんがドジョウやタナゴは育ちます。理由はわかりませんが、里山、里地の栄養が少ないのではないかと疑っています。

西池から東の方向を見るとベースキャンプが谷筋にあるのがよく分ります。それなら、溝を作れば水はビオトープに来るはず。

改めて見てみると、東池が第2駐車場より東の雨水を受け止め、山側の側溝の水を加えて水源となり、畑の中を通っている溝に流す仕組みが出来ています。他にもベースキャンプの横の竹林の中にも溝があります。でも溝が埋もれていたり、ゴミが詰まって水が流れたり、止まったり。これでは里山、里地の栄養をビオトープに運べません。今の仕組み、溝は幻の小川です。

ならやま全体が大きなビオトープという視点で水の流れを考えること。更に、幻の小川を豊かな里山、里地の栄養を運ぶ動脈として再生できれば、水生生物が豊かに繁殖する水辺が出現すると信じています。そして先人達が思い描いていたであろう、ホテルやトンボなどの水生昆虫が飛び交う里、豊かな小川や水辺が出現することを願っています。

里山グループ

里山の今

花だより



◆薪割り大好き

戸田 博子

暖かかったり寒かったりと、目まぐるしく変わる今年も、梅や桜が咲く3月になった。

私たちのコロナ自粛生活には関係ないように、木々の新芽や地面の草花は、ドンドン伸びているように見える。

薪割りをすれば、カミキリムシの幼虫は居るし、寝ていた黒ゴキブリが出てくる。

最近、薪ストーブの普及が進み、薪の購入者が増えて、薪のストック棚が空っぽの所が多くなった。

以前は、枯死木や倒木処理のクヌギやコナラが多かったが、これらの木々以外にソヨゴ、タカノツメなども薪として提供している。里山林の管理、再生、持続の取り組みだ。

薪の材料が不足気味だけではなく、薪割りは里山美女?5人組で行うことが多く、体力に不安を感じるようになってきた。

SDGsである為には、薪にする木々のドングリを発芽させ、成長した苗木を山に植え、ある程度の年月が経てば伐採し、薪に加工する流れが必要だと言われている。

また作業に関わる人も、お互い事故に気を付け体力を維持しながら続け、薪作りメンバーも新しく仲間に加わって更新していくことも大切だと思っている。

昨年に実施した樹木調査のように、他グループの方々にも体験してもらっても良いと思う。

私は、会に入れてもらって3月で4年になるが、色々な思いが頭の中に渦巻いているこのごろだ。



◆春を待つロゼット

～地面のバラもよう～

坪井 都子

「ロゼット」って？ ロゼットとは本来バラの花の形を表す言葉で、タンポポやオオバコの早春の姿がロゼット状です。

植物用語としてのロゼットは、放射状やらせん状の茎や葉の様子のこと、野草の冬越しの姿の一つです。茎がよく見えなくて、地面から直接葉っぱが出ているように見えます。その葉を「根生葉」と言います。2月4日、ならやまベースキャンプの周辺を歩いただけでも、ギシギシ・ヨモギ・タンポポ・オオバコ・ナズナ等々、たくさんのロゼット状の野草と出合えました。

↓タンポポ

↓オオバコ



ロゼット型植物の成育できる環境として、最も身近なのは人間の手による攪乱が頻繁に起こる場所です。踏みつけられたり、まめに刈入れが行われたりする場所です。オオバコの場合、踏みつけへの耐性が高いだけでなく、踏んだ靴の底に種をつけて運ばせるというしたたかともいえる繁殖戦略さえもっています。

ではなぜロゼット型植物になるのでしょうか？ それは、茎を作るためのエネルギーが節約できるからです。光合成によるエネルギーを根や葉に回して、子孫を残す方の栄養補給に充てているのです。またロゼット型植物は茎が短く葉が密集するので、葉を放射状に配置して葉っぱが重なるのを防いでいます。

ロゼット状でしっかり春の訪れをつかんでいる野草にエールを送りたいです。

新春ならやま研修会レポート

富江 文雄

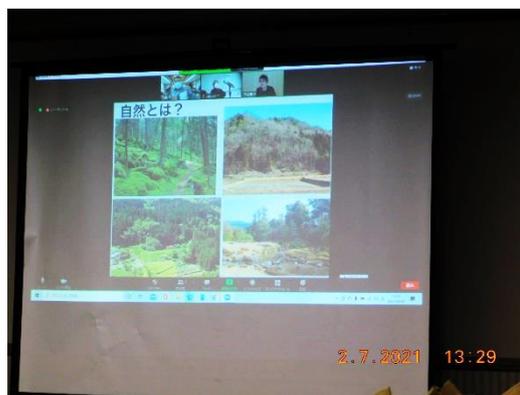
新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が大
阪府・京都府・兵庫県に出された関係上、初め
てZoomを使ったon line 講演会が実施された。
リガール春日野に42人の会員が集まり、感染
予防策として座席の間隔を十分とり、換気に注
意するなどの配慮がなされた。慣れないZoom
の設定に初めは多少の戸惑いはあったが、何と
か時間通りに開始できた。

鈴木会長の挨拶の後、まず最初に里山グルー
プの森英雄さんが『「ならやま」でのこれまでの
活動経緯と今後の取り組みについて』と題して
約30分の発表があった。美しい環境整備、ナラ
枯れ対策、里山再生の実験、森林資源の活用等
を取り上げ、今一番の問題は、人手不足、人材
育成であり新規参加者の積極的な勧誘が急務と
された。



これに対して黒田先生から、景観保全と美し
い景観とは必ずしも同一ではないのではないか
等のコメントがあった。

この後小休止をとり、黒田先生の紹介が鈴木
会長からあって、「都市近郊の里山資源の活用」
という表題の下、神戸大学大学院 農学研究科
黒田慶子先生による講演が約1時間あった。ま
ず、自然とは何か?から話が始まり、欧米人
には「原野」を意味することが多いが、日本人で



は必ずしもそれを意味しない、むしろ人との関
係を大切にする。

森林は日本の国土の2/3を占め、その3割が
里山林である。里山は農用林であって、広葉樹
林が中心の天然林ではない。本来の里山林は、
15~30年周期で順次に伐採、収穫し、切り株か
ら芽生えで再生する能力があり、植林不要であ
る。切った木は薪炭に使い、枯葉は肥料になる。
伐っては育てて使う効率的な資源生産である。
1950年代から里山の利用が急速に低下し、現
在放置されている所が多い。

「里山の整備とは何か」、「その具体的な手法
は」、また「里山管理の方法」等、広範な説明が
あった。

その後、質疑応答が続き、山本さんが、自然
の森と里山を分けて管理する点を質問。中井さ
んは、「ならやま」にない草木を移植する点の質
問。古川さんが「自然の森」の設定は人的な制
限があったからとの説明。最後に坂東さんから
里山林の再生に関する質問があって、講演会
が終了した。黒田先生には是非コロナ問題が終
了後、「ならやま」において頂きたいとの要望が
なされた。



月例研修会レポ

下ツ道を行く

福田 美伸

2月9日、新型コロナウイルス禍で世の中が騒いでいるのに、近鉄橿原線石見駅9時30分集合、総勢26名がゾロゾロと歩いたから付近の人達は、きっと驚いたに違いありません。月例会は一昨年の積み残しの下ツ道を南へ約10km。皆さん、田原本近辺に、正一位の格式の高い立派な神社が点在していたことを、ご存知だったでしょうか？私は奈良に26年も住んでいたのに、全く知りませんでした。



唐古・鍵遺跡前で

下ツ道は、藤原京から平城京まで南北に真直ぐで幅23m、長さ約23km、しかも上ツ道、中ツ道、下ツ道と三本の同じ道があったというから驚きます。大和郡山市稗田町には、下ツ道の幅18m、長さ19mの橋の杭跡が現存しております。下ツ道は江戸時代には中街道と呼ばれ、重要な街道として利用されておりました。平城京朱雀門前には下ツ道から続く、幅74m、東西に260m、南北に140mの道が通っていたというから、さらにビックリします。現代でも、考えられないような道が存在しておりました。当時の天皇が秦の始皇帝時代の都を模倣したとネットに書いてあります。



下ツ道(古代)・中街道(中世)・田原本町

唐古・鍵遺跡には、柱に使われていた直径83cmの木が展示されておりました。弥生前後の時代に、どのような道具で切って、何トンもあるものをどのように運んだか？不思議でなりません。杵築神社、安養寺、首切り地藏を回り、鏡作坐天照御魂神社へ。天照国照彦火明命、石凝姥命、天糠戸命の三神を本殿として祀った正一位の立派な神社でした。全国の鏡メーカーから尊ばれております。



鏡作神社 鳥居

田原本藩主、平野長勝の菩提寺、本誓寺、浄照寺、津島神社等を見学。さらに南下し、最後に正一位の多神社は多坐弥志理都比古神社が正式な名称です。神武天皇の血筋で、境内には多氏の家があり、百数十代目の方が住んでおられます。四主祭神は神武天皇、神武天皇皇子、綏靖天皇、玉依姫命が本殿に祀られ、古事記を編纂した太安万侶も祀られています。官位従六位下であったが古事記編纂した後、官位正四位下に大出世です。まだ見たことがない人は、是非見に行ってください。とても素晴らしい神社です。



多神社 四主祭神 本殿は県指定文化



私の読書ノート

尾崎 信次



(県立図書館での本書の棚 人気があるようです)

最近、ハマったのは塩野七生の『ローマ人の物語』です。10年ほど前、県立図書館で見つけ、数ヶ月かけて読みすすめました。(10年を最近というとは、年齢を感じますね)それ以前に文庫本で読んだ、陳舜臣の『中国の歴史』の記憶と比べて読んでいます。

大ざっぱにローマの歴史を言うと、最初は王政(BC753-BC509)でしたが、王の暴政に反乱して共和政に変わり、これで「王」が禁句になります。元老院が選んだ任期のある執政官(コンスル)が実務を担うことになります。絶対的な君主がないので、執政官が戦死しても代わりを任命できることで、カルタゴ等に勝ちあがり、領土を広げていきました。

カエサルはガリア(今のフランス)ブリタンニア(イギリス)を征服し、ポンペイウスと戦いエジプトを平定して凱旋し、終身独裁官になります。そこで「王」となろうとしているとみなされ、暗殺されることになります。ちなみに「ブルータス、お前もか」のブルータスは王政を廃止し、最初の執政官になった人物の末裔です。

その後、カエサルの養子であるオクタウィアヌスがアントニウスと戦い勝利し、初代皇帝となったのです。といっても、元老院はそのまま残り、建前上は後々まで共和制国家で、皇帝はそれに統治を委託されたという形です。

「皇帝」という名は秦の始皇帝がそれまでの王の上に立つ新しい称号としてつけた中国語で、絶対的な世襲権力者を連想します。それに対してオクタウィアヌスの正式の肩書きは「インペラトル(命令権)・カエサル・神の子・アウグストゥス・大神祇官・コンスル・最高司令官・護民官・国父」と従来の分散された権力者の肩書きを全部兼ねた、複雑なものでした。後の皇帝も一部の権力を他人にゆずったりしていて、中国の皇帝と全く違うタイプでした。

3世紀、ディオクレティアヌス帝が東洋的な専制君主となって、中国の皇帝と似ていくことになります。そのインペラトルが英語のエンペラー(emperor)になり、中国の「皇帝」の翻訳語となりました。

ローマ皇帝は統治が成功したときは次代の指名権があり、息子がいれば世襲することも多かったようです。一方、出来が悪かったら、暗殺や自殺の強要等があり、全体を見ると自然死より暗殺・自殺した人の方が多く、かなり不安定でした。初期のカリグラやネロのように短期間で変わることで、悪影響が限定されるという良い面もありました。後期には、皇帝を殺して新皇帝になった司令官がすぐに副官に暗殺されるというようなこともあり、不安定さを加速させました。そこらは世襲が絶対条件の中国の皇帝と違うところです。

それにしてもローマは不思議な国です。技術面では、全土に張り巡らされた舗装道路・水道橋等を使った都市への水道網やそれによる豊富な水を利用した公共浴場・コロッセウムやパンテオンのような大規模な建物・農業の生産性等、19世紀まで同等の物が作れないほど進んでいました。しかし、殺人を含む暴力が権力移行の手段であったり、殺し合いが見世物になったり、奴隷がいたり、古い所もしっかり持っていて、そのアンバランスさが魅力かもしれません。



ならやまトーク・投句(3月編)

〈寒中吟〉

晨星の生駒の嶺や初菫

中井弘

(星の残る暁の空、生駒の嶺はもう仄かな菫色に 新春山男の句)

参道に笠の音届く初詣

藤原 勲

(初詣の参道に響く笠の音に、心までも洗われ思わず襟を正す)

天晴れや黒いジャージのラガー達 同

(新型コロナウイルスの試練に耐えて全国大学ラグビー天理大初栄冠！
よかった、よくやった。當てのラガー、老いの血が燃える)

菓籠りや家事降りしきる冬の朝

岡田安弘

(ゆっくり朝刊を読む間もなく米洗い、風呂掃除が待っている)。

ナラ枯れも薪でひと役七日粥

中井弘

(初出は七日、七草粥を炊く。なら枯れの薪も立派に役立った)

柿植えて米寿までにと初笑い

古川祐司

(十年会員記念の植樹。カキの実が傘寿の祝いになる方も)

雲流る寒風の中バスを待つ

笠井文夫

(新型コロナの中、やむを得ない外出も。バス待つ身に寒さがこたえる。この雲行きでは雪になるかも)

〈春近し〉

田起しの跡追いかけて鳧の群

坂東久平

(春耕と餌をあさる鳧(けり)の群れ。毎日の万歩の嬉しい発見)

病む友をスマホで見舞う春隣

阿部和生

(コロナ禍に面会もスマホで、元気そうな映像に安心)

佐保姫の平城山の裾彩りて

小山喜与男

(佐保姫は春の季語。野山を涉って春の花々を咲かせるとか)

水溜りピョンピョン跳ぶ子春の雨

藤原 勲

(生憎の雨模様。春と待ちかねた子供の弾む心が微笑ましい)

春光やうつらうつらにバツハ聴く

ハ木 順一

(春日の午後、好きなバツハの曲に浸る、究極の癒しですか)

春眠を蹴散らし猫のセレナーデ

ハ木 順一

(ネコの恋は季語。あの鳴き声だけは何ともいただけませんね)

古物置組む傘寿らの冬日和

古川祐司

(実りの森に、古い物置を再利用すると頑張る傘寿たち)

投句歓迎 (古川まで)

CY003421@nifty.com

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

3月の活動について

3月4日：協働活動日(水路整備・清掃)

3月25日：備品点検日

3月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	No.18区画付近部分皆伐地区整備／シイタケ菌打ち／学びの森植樹 ユート:アカマツの森南側整備
エコファーム	春野菜種まき／ジャガイモ植え付け／サツマイモ、サトイモ畑準備 畝作り、チップ入れなど
景観	整備:BC周辺整備、ミツバチ巣箱周辺整備、チップ作業 ビオ:池整備／水路整備 花:桜・椿・菜の花に寒肥施肥、百日紅・藪椿移植／矢車草苗間引き／夏花畑準備、葉牡丹撤去
パトロール	1~4コースパトロール／観察路・丸太階段整備／春の植物観察 メンテ:水路整備具体計画検討
果樹	実りの森B地区の地盤改良／実りの森斜面のコンポスト用地化

<特記事項>

- ① 様々な生き物が生息するために、また農地や湿地への適量かつ円滑な用水供給のために、里地に小川が流れる必要性を再認識し、今後、定期的に水路の清掃(落ち葉や土砂の除去)を協働活動に組み込む。3月4日の協働活動は水路清掃を行う。
- ② 20周年記念事業の一つとして、学生の協力を得てモニュメントの制作設置を検討しており、設置場所として学びの森の一角を充てる。これを機会に学びの森の再整備を考える。こうした状況を踏まえ、学びの森へのコナラの植樹は当面、東側のみとする。
- ③ 助成金の減少もあり資金収支は次第に厳しさを増してくる。備品管理をより徹底し、無駄な出費につながることをないようにすること。
- ④ 来年度予算についても各Gの要求を精査し、削減を求めていることがある。
- ⑤ 展望広場はほぼ完成し、ならやまの活動ポイントとして会員に広めたい。

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

(前日水曜日の気象庁17時発表(NHKTV19時前放送)の天気予報にて、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日でも同予報であれば中止)



行事案内



4月 月例研修会のご案内

笠置山(笠置寺)ハイキング・花見

富井 忠雄

今春は、コロナ禍の中であまり密にならないように、花見を兼ねて笠置山(標高 289m)を散策した後、木津川の巨石の上でのんびり昼食とします。笠置寺は古くから山そのものが御神体として信仰の対象とされ、修験道の行場でもありました。そびえ立つ巨大な弥勒磨崖仏に圧倒されつつ、胎内くぐり、太鼓石、ゆるぎ石、後醍醐天皇行在所跡など 1時間ぐらいの行場を巡り、山頂では絶景が待っています。

[実施要領]

1. 日 時:4月6日(火)
2. 集 合:JR 笠置駅(関西本線)9時45分
JR 奈良 9:17-加茂 9:33、9:36-笠置 9:43 着
(笠置駅ではICOCA,PITAPA の利用できませんのでできるだけ乗車時に切符を購入してください)
3. 雨天の場合:申し合わせ 60%以上中止
4. 行 程:笠置駅 9:50 発—(旧登山道)—笠置山(笠置寺拝観、行場巡り)—木津川川岸—巨石群(のんびり昼食)—JR 笠置駅 15 時頃解散(歩行距離約 6km、高低差 200m)
5. 持ち物:弁当、飲物、敷物、ストック
6. 会費:入山拝観料+飲食代 1,000 円
7. 世話人:千載輝重、太田和則、富井忠雄
8. 連絡、申込み:富井忠雄



笠置寺行場巡り平等石より木津川方向

自然教室チーム 春爛漫の奈良公園 自然観察会(桜見物)のお知らせ

辻本 信一

昨年はコロナ禍により予定していた全ての自然観察会が中止となりました。

今年の方が格段に良くなったということではありませんが、ワクチン接種もはじまり、徐々に改善の兆しも見えはじめています。

こうした中、私たちもウイズコロナの時代に対応すべく、できる限りの対策を講じつつ、満を持して1年ぶりの自然観察会を下記要領にて実施したいと思います。

1. 日 時:4月5日(月)9:30~12:00 予定
2. 集 合:近鉄奈良駅、行基像前
3. 持ち物:昼食前に終了しますので飲み物程度
あればループをご持参ください。
4. 観察ルート:春日野園地を中心に奈良公園内をのんびりと散策します。
5. その他:事前の申し込み不要
雨天時の中止は当会申し合わせ通り

担 当:辻本

奈良公園では早ければ3月中頃からサトザクラ開花の5月はじめごろまで時期をずらして色々な桜の開花が楽しめます。今年はどんな桜の花にお目に掛かれるか楽しみにご参加ください。



新入会員歓迎会

昨年4月から今年3月までに入会された方を対象に以下の要領で行います。

新型コロナ下ですので特別メニューは用意せず昼食時間内に行います。よって、各自通常通りの昼食準備をお願いします。

- ◆日 時:4月1日(木)12時~13時
(雨天順延:4月8日(木))

◆内 容

1. 新入会員の紹介
2. 新入会員歓迎の言葉
3. 新入会員のご挨拶
4. 閉会

2021年2月度幹事会報告

日時：2021年1月26日 10:00~12:00

I. 会計、総務部より

1. 会員動向：会員数169名。前月同数
2. 会計報告：収支報告、特に問題なし

II. 活動・行事関係

1.3 カ月活動予定

- ・新入会員歓迎会は4月1日に行う

2. ならやまプロジェクト関係

- ・椎茸イベントは中止、活動日に植菌作業を。
- ・動力機器使用者の登録管理をする
簡易な作業についてはGリーダー了解のもと使用を認める。チェーンソーについては保険担当(辻本)に使用報告をする。

3. 新春研修会は急遽リモートで開催することに緊急事態宣言下、講師の黒田先生からの提案を受けて急遽対応

III. 企画、助成関係事業案件

1 記念事業企画会議、記念誌編集委員会

- ・モニュメント、設置場所、内容等今後も学生たちと検討を続けていく
- ・図録集、データ作成中、表紙選考

2. 各種助成金、交付金事業

- ・担当者より現況報告あり

IV. 喫緊・提案事項

- ・第20回通常総会準備日程について
今年度収支見込み、次年度計画予算、活動報告、活動計画の提出を2月末までに。会計監査4月20日。5月15日総会予定
- ・コロナ対策 奈良県、奈良市の判断を基準として対応する。

V. 広報、関係

- ・ネイチャーなら3月号編集内容の確認
- ・シニア実習生、受け入れは当面中止。

VI. 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会 ・自然教室 ・歴史研修会他
- 以上

3月度幹事会は2月23日(火)16:00~ZOOM



<春告草>

2021年が明けた。年が明けると「梅は咲いたか、桜はまだかいな」というフレーズを思い出す。梅は「春告草」だ。梅が咲くと春が来る。でも、今年の梅は2020年の12月25日に咲いたという。奈良地方気象台が奈良市の奈良公園の梅に7輪の花が咲いているのを確認して宣言した。去年より25日、平年より42日早く、昭和29年に観測を始めて以来、最も早いという。人間にとってはまだ冬なのに、梅は春を感じたのか？他の動植物はどう思っているのか気になった。

気象庁が今年から生物季節観測の対象の動植物を9割削減すると発表した。昭和28年から開始した動植物57種(植物34種、動物23種)の観測を6種(さくら、うめ、あじさい、すすき、かえで、いちょう)を除いて廃止するそうだ。理由の一つとしてウグイスの初鳴きなどの時期が大きすぎて、季節の変化を知らせる意味合いが薄れてきたことをあげている。ほんとうにそうだろうか？今年の梅の開花が「人間の理解を超えた季節のうつろいを伝えている」と思うのは考えすぎか。

梅の相棒の「春告鳥(ウグイス)」はどうするのか。春が近づくと、ウグイスは「チャッチャ」と鳴かずに「ホーホケキョ」と鳴くという。ならやまの自然の中で、耳を澄ませて季節のうつろいを感じたい。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：シイタケ^{ほだぎ}樽木作り

伐採したコナラは太い部分は薪に、細い部分はシイタケの樽木として、里山の資源を大切に有効利用しています。